

令和5年度 学校経営方針

1 学校教育の理念

本校及び地域の歴史の中で培われてきた伝統を大切にしながら、常に教育課題を見据えて改善を加え、家庭・地域社会との連携のもと、新しい次代を担うたくましさを持ち、豊かな心と知性を身につけた実践力のある児童を育成する。

2 学校教育目標

「心身ともに健康でたくましく 自ら考え 実践力のある 心豊かな子ども」

- ◎ 自ら学び よく考える子ども (知)
- 思いやりがあり がんばる子ども (徳)
- 明るく たくましい子ども (体)

3 スローガン

「和と集中、そして前進」

4 令和5年度教育課程の方針

- (1) 主体的・対話的で深い学びを促す授業実践
- (2) 郷土に誇りを持てる「愛村教育」の推進（歴史や伝統の継承・発展活動）
- (3) 豊かな心や創造性の涵養（道徳科を核とした道徳教育・体験活動・表現活動）
- (4) 教科横断的な視点に立った資質・能力の育成（協働的・探求的な学びと地域人材の活用）
- (5) 「外国語科」「外国語活動」の充実（学習内容の充実と体験・特別活動との連携）
- (6) プログラミング教育の充実（地域人材・外部資源の積極的活用）
- (7) 幼・小・中との連携の計画的実践・充実（「つなぐ教育」の推進）

5 教師の基本的姿勢

学校経営全てが、「誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちの成長のために」ということを根底に、全ての教職員が子どもたちの成長のために、アイデアを出し合い、協力し合いながら、着実に日々の実践にあたる。

目指す教職員像として以下の4点を挙げる。

- ・ 授業（子どもの学び）を大切にする教職員
- ・ 子どもを大切にする教職員
- ・ 同僚を大切にする教職員
- ・ 保護者・地域から信頼される教職員

6 学校経営方針

- (1) 大里小学校の歴史・伝統・文化・環境を踏まえ、新たな一步を目指した学校経営を行う。
 - ① 大里小学校の諸条件のよさを生かした教育活動
 - ・ 創立149年目という学校の歴史の中でつないできた伝統
※令和7年2月（令和6年度2月）創立150周年記念式典
 - ・ 地域の歴史と文化，恵まれた自然環境と地域の人的環境
 - ② 学習指導要領の「生きる力」を育む教育活動
 - ・ 「主体的・対話的で深い学び」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」
 - ・ 地域教材・総合的な学習の時間・生活科を核とした知の統合化
 - ・ SDGsの視点を活用した探求活動の推進
 - ③ 学校経営・運営ビジョンに基づいた教育活動の推進
 - ・ 全職員参画によるビジョンの策定・実施・評価・改善
 - ・ 家庭・地域への情報発信と受信による自校の教育活動の見つめ直し
 - ④ 幼・小・中の接続を考慮した教育活動の展開（「つなぐ教育」の推進）
「村はひとつ，学校はひとつ，願いはひとつ」
 - ・ 村内各小との合同授業・交流体験活動の充実
 - ・ 架け橋プロジェクトにおけるスタートカリキュラムの改善・発展

- ・ 中学校進学を見据えた村内各小学校との協力・連携による共通理解・共通実践
 - ・ 情報の共有と活用並びに課題の共有と実践の連携
 - ⑤ 天栄村教育委員会施策「英語の村てんえい」事業の実践・推進による「英語科」「英語活動」等の充実
 - ・ 低学年→A L Tの活用を通した「英語に親しむ機会」の充実
 - ・ 中学年→Q Q English+A L Tの活用を通した「英語活動」の充実
 - ・ 高学年→Q Q English+A L Tの活用を通した「英語科」の充実
- (2) 教職員が主体的に学び、やりがいをもって働くことができる持続可能な教育環境を構築し、教員の力、学校の力を最大化させ、組織体として教育にあたる。
- ① 教職員一人ひとりの自己課題解決そのものが自校の教育力の向上につながるという認識に立った計画的研修
- ・ 「教職員人事評価制度」を活用した職員個々の目標管理の充実
 - ・ 校内における授業研究の推進とさらなる指導力の向上
 - ・ 個々の専門性の発揮による子どもの見方・捉え方や指導技術等の共有化
 - ・ 教職員一人ひとりのニーズに沿った外部研修への積極的参加の奨励
- ② 教職員の組織力の強化による教育効果の向上
- ・ 「風通しの良い職場」づくりのための相互「報・連・相」の励行
(とりあえず報告・念のため報告・相談の重視)
 - ・ 自校の実態に即した校務分掌組織の効率的編成と分掌に基づく組織的な実践
 - ・ 目的・目標の的確な設定・把握と、それらを共有した上での組織的実践
 - ・ 超過勤務時間の縮減への取組みの強化
水曜日のノー残業デー・金曜日のリフレッシュデーの午後6時閉庁
平日午後7時閉庁の励行
- (3) 学校・家庭・地域社会との連携強化を図り、それぞれの教育力を生かした学校経営を行う。
- ① 保護者の理解・協力をもとにした学校経営・学級経営の推進
- ・ 家庭学習の習慣化や基本的生活習慣の定着
- ② P T A等との連携による教育活動の活性化
- ・ 安全・安心な教育環境づくり
 - ・ 歴代P T A会長や区長との連携
- ③ 保護者・地域の教育力の積極的な導入と教育力向上のための啓発
- ・ 豊かな体験活動等での地域人材資源の活用
 - ・ 専門的知識・技能を持つ人材の学習への活用
 - ・ 啓発資料の作成・配付や講演会等による家庭教育力の向上
- ④ 家庭・地域・関係機関との連携による子どもたちの安全確保
- ・ 「子ども見守り隊」の拡大・組織化並びに「子どもを守る連絡会」の活性化

7 学校教育目標の具現につなげる実践の視点

(1) めざす児童像 「学校に来るのが楽しい」と言える子ども

子どもたちを伸ばし成長させるためには、子どもが毎日学校に来ること、そしてその中で、喜んだり悲しんだり、悩んだりほっとしたり、楽しんだり苦しんだりといった経験を積み重ねることが必要である。つまり、様々な経験による自己実現に伴う喜び・充実感・達成感・満足感のみならず、失敗経験によって耐性を培い、繰り返し努力する姿勢やさらに高次の目標達成へと向かう姿勢の獲得が子どもの成長を育むことを踏まえれば、そうした経験そのものやその経験の積み重ねが非常に大切である。それらの経験を通して「自尊感情」を育み、他者との関わりの中で、「自己有用感」を実感し、学校で学ぶことの喜びが子どもを大きく成長させ、笑顔と自信に満ちた“瞳が輝き続ける子ども”の育成に繋がると信じる。

(2) 教育目標の具現化のために

① 「自ら学び よく考える子ども」の育成のために

児童一人ひとりに確かな学力を育成することが、教育目標の一つ目の柱の中核をなす。

その具現化された姿を「学ぶことの楽しさが実感できる子ども」とし、以下の手立てで実現を図る。

- 主体的で、対話的な深い学びを実践する授業をする。

- ・ 「授業スタンダード」の実践
- ・ ICTを活用した基礎的・基本的な学習内容の確かな定着
- ・ 児童にとって「自律型の授業」「学ぶ楽しさがある授業」の構築
- ・ 学習内容の定着と発展を図る時間の確保
- ・ 思考力・判断力・表現力の向上を図る活動の適切な位置づけ
- ・ 自力解決とともに互いに学び合う場の設定
- ・ 体験的活動の積極的な導入による「学ぶ意欲」の育成
- ・ 個の実態や実情に沿った学習内容・指導形態の工夫
- 共感的人間関係に立った授業実践に努める。
 - ・ 良い学級集団の雰囲気が良い学習集団となるような学級経営
 - ・ わからないことが「わからない」と言え、友だちに「教えて」と言える雰囲気の醸成
- 失敗体験を次に生かそうとする意欲や耐性を育む。
 - （＊教室はゴガクの場合「吾学・互学・誤学」）
 - ・ 手をさしのべる場と見守る場の見極めと適切な指導支援
 - ・ 失敗体験が事後措置により成功体験と同価値となるという視点
 - ・ 失敗体験を次に生かそうとする意欲や耐性を培う指導支援の充実
- 学習意欲と学ぶ態度や学ぶ準備、学びの習慣の育成・定着を図る。
 - ・ 発達段階に応じた系統的な学習訓練の積み重ね
 - ・ タブレットを活用した家庭学習の実践
 - ・ 授業と密接に結びついた家庭学習課題の提示
 - ・ 個に寄り添った教育相談の充実による家庭学習の習慣化
 - ・ 語彙量や知識量、感動や間接経験を増やし視野を広げる読書活動の一層の推進
- ②「思いやりがあり がんばる子ども」の育成のために

自分を取り巻くヒト・モノ・コト（郷土、自然等）へ積極的に関わり、それらを尊重して愛護する態度を育むために、思いやりの心を育て、相手を尊重する気持ちをもって行動できる力を育成することが二つ目の柱の中核をなす。

その具現化された姿を「思いやりの心を持ち、相手のことを考えて行動できる子ども」とし、以下の手立てで実現を図る。

- 郷土を愛する心（『大里に生まれ育って良かった』と言える子どもを育てる）を育む体験活動の推進・充実を図る。
 - ・ 郷土の歴史・伝統・文化・産業等を体験し理解する教育活動
 - ・ 理解した郷土の歴史・伝統・文化・産業等を発展・発信する教育活動
- 児童一人ひとりの理解を深め、成長を促す視点での教育に努める。共感的理解を基盤とした児童理解を充実させる。
 - ・ 好ましい人間関係構築の基盤としての学級づくり
 - ・ 心情を十分に理解した上での言動の是非についての適正指導
 - ・ 児童理解や児童とのラポートづくりのための児童との活動の共有
 - ・ 望ましい人間関係を育む特別活動の充実
 - ・ 生徒指導の機能を生かした授業の推進
 - ・ 場と機会を捉えた教育相談の充実と保護者との連携の推進
- 道徳教育を一層充実させ、道徳科の授業を要として全教育活動を通して「思いやり」「集団生活の充実」「自律」に重点を置き育む。
 - ・ 人間関係を円滑にするあいさつと時と場に応じた言葉遣いの実践
 - ・ 思いやりのある言動や親切な言動についての積極的な認知と称賛
 - ・ 決まりや約束を守る心と態度、自律心の醸成
 - ・ 異年齢集団活動の推進による相互理解と思いやりの心の醸成
 - ・ 授業参観等の機会による保護者への啓発
 - ・ 「考え議論する道徳」の授業並びに適切な評価の充実
 - ・ 外部・地域人材の積極的な活用の推進
- 児童理解と適切な指導法の共通理解をし、実践の共有化を図る。
 - ・ 生徒指導協議会を核とした、一人ひとりの児童を全職員で育てる意識の高揚と共通実践
 - ・ 特別支援教育協議会や就学指導委員会を核として、対象児童の特性理解と指導法の共通理解の下、関係機関と連携を図り、一人ひとりの児童を全職員で支援する体制の確立と共通実践

③「明るく たくましい子ども」の育成のために

心身の健康を維持向上し、体力や運動能力を高め、安全な生活をしようとする態度を育成するとともに、目標をもって粘り強く最後までやり抜く態度を育成することが三つ目の柱の中核をなす。

その具現化された姿を「健康な身体や命を大切にし、ねばり強く最後までやり抜く子ども」とし、以下の手立てで実現を図る。

○ 基本的生活習慣の定着を図る。

- ・ 「早寝・早起き・朝ご飯」のさらなる推進と定着
- ・ むし歯治療率と口腔衛生の向上を図るための歯科衛生士による指導の充実
- ・ 「肥満」防止・改善に向け、バランスのよい発育のための「食育指導」や運動習慣の定着・推進
- ・ 「自分手帳」の有効活用を通じた健康意識の向上
- ・ ハンカチの携帯など衛生面の意識向上

○ 体力や運動能力の向上を図る。

- ・ 一人ひとりの体力や運動能力を高める体育科の授業・体育活動の充実
- ・ 体育的行事・記録会を通じた運動への意欲向上に向けた継続的な働きかけ
- ・ 学習内容に即した「体力向上プログラム」の改善・充実
- ・ 始業前・業間運動の実施や「遊び」を通じた体力・運動能力の向上

○ 事故の未然防止や感染症の予防、及び健康増進を図る指導・支援を徹底する。

- ・ 朝の読書を通じた落ち着きのある一日のスタートの徹底
- ・ 朝の健康観察による一人ひとりの児童の的確な健康把握
- ・ 養護教諭と連携した各種保健指導の充実・実践
- ・ 時季に即した日常生活指導の重点化と指導の徹底
- ・ 定期的な安全指導と対応の仕方の指導の徹底を図り、危険予測と状況に応じた判断力・行動力の育成
- ・ 学校施設・設備の安全確認の励行・徹底
- ・ できる限りの情報収集と危機意識を持続した感染症予防等への早期対応

○ 目標をもち、最後までねばり強くやり抜く根気や、自己有用感を醸成する。

- ・ 目標設定プロセスの指導とPDCAサイクルによる実践力の育成
- ・ 自分の良さを認識させる「ほめる」指導の徹底
- ・ やり抜いた後、協力してやり遂げた後の達成感・成就感を味わわせるための承認・称賛等のさらなる励行